

## ガマのひとりごと

### 住宅用火災警報器の話

こんにちは、ガマです。

最近新築された方はご存知でしょうが、平成 18 年 6 月 1 日から、「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられました。設置場所は、階段の上と、寝室とですから、一軒の家で 4 ヶ所前後ですね。

その対象が原則、平成 23 年 6 月 1 日までにすべての住宅に適用となります。建物火災による死者の数は、住宅火災によるものが 90.5%に及び、死者数は年々増加傾向にあるらしい。

また、死亡原因の 63.9%は逃げ遅れたためだ（総務省消防庁の統計）といわれています。だから早期発見が重要になりますね。

火災警報器には、煙を感知するものと、温度を感知するものがありますが、煙感知方式の「光電式住宅用防災警報器」の設置が基本です。火災警報には「ピーピーピー」と音だけのものと、「ピーピーピー火事です、火事です」と音声のものがあります。今の住宅には色々の物から同じような音が出ていますので、火事だと認識するのが遅くなるという実験結果も出ているようです。

まず大切なことは警報音を何度か聞いておくことですが、できたら「火事です」という音声によるものの方がよいでしょうね。

詳しいことを知りたい時には遠慮なくお問い合わせ下さい。我が社でも取り付け工事を行なっています。

また、こういった義務化ができますと、悪徳業者が絶対設置などというセールストークで法外な金額を提示することがあります。設置義務はあっても罰則規定はありません。価格も展示場に取り付けているもので、材工共で 1 ヶ所 5,000 円（定価 6,400 円）でした。1 軒で 20,000 円前後の費用負担で済むはずですよ。



展示場に設置している住宅用火災警報器



## 我が家のペット

### 飼い犬に手を噛まれる

中井千尋、先日、柴犬の「あずき」とケンカをしました。

朝、欲しいと言うから食パンのミミをやったのに、ソファの上にはおたからかしておくので、いらなかなと何の気なしにつまんだら、右手をガブリ。

「飼い犬に手を噛まれるとはこのことだ」、と頭に来て叱ると、吠えてくる。

「そっちが先に噛んでおいて逆ギレか」と、そばにあったクッションでバシバシたたいてやったら、よけい大声で吠えてきて今にも噛み付かん勢い。1人と1匹で朝からものすごい大騒ぎでした。

最後は、姉妹ケンカをなだめるように母が間に入り、あずきを外に出しました。あずきは、抱えられながらもさらに私に向かって吠えており、母に怒られていました。いい気味です。私も後で怒られたけど…。

その後、仕事に行こうと外へ出たらあずきと目が合いましたが、お互い無視。

夜、私が仕事から帰って来たら、家の中にいる母が誰が来たのかと心配するくらい、大きな声で吠えたててきました。いつもならシッポを振って可愛い遠吠えをして出迎えるのに。暗いとはいえ私だと分かっている嫌な子。

誰に似たんでしょう、気の強い女の子です。

次の日には吠えられなかったし、私もクッションでバシバシ叩くこともなく、何となく仲直りした格好になりましたが、最近では妹や弟とも、あんな低レベルなケンカはしないのに、まさか犬と。「お姉ちゃんとあずき、恐かったよ」と妹が言っていました。

そういう妹は、ソファの上で気持ちよく寝ていたあずきに飛びついて、急な出来事にビクッとしたあずきに手をガブッと噛まれたことがありました。

そのときは、さすがにあずきも「本当に自分が悪かった。ごめん」と思ったのでしょうか。噛まれてしょんぼりしている妹の手を、一生懸命ペロペロ舐め続けていたといいます。

食べ物が欲しいときは人の腕をかいてきたり、犬なのに妙に表情が豊かだったりするあずき。エサを食べている猫にちょっかいを出して、顔を引っかかれて負傷したこともありました。

我が家の可愛い末っ子です。



あずきです。ときどき手がエサに見えてしまうんです。

## 徳川家康ブーム



山岡壮八さんの「徳川家康」(講談社、全 26 巻)が中国で読まれているらしい。「家康」という人は、「信長」や「秀吉」と比較して華がありません。絢爛豪華な「安土桃山文化」も「家康」

が天下を取るとしぼんでしまいましたからね。性格的に陰性なのでしょうね。忍耐力テストを受け続けているような人生ですから仕方がないかもしれません。

3歳で生母と引き離され、6歳で人質として今川氏に行くところを織田氏に銭で売られ、8歳で人質交換で今川氏に連れてゆかれる。その頃には父親は殺されていますから後ろ盾もない。

14歳の時に今川氏の命令で結婚をさせられるのだが10歳年上の女性。18歳で「今川義元」が桶狭間(おけはざま)で「信長」に倒されるまで、「家康」は今川氏の植民地の酋長ぐらいの待遇しか与えられていません。

18歳で岡崎城主として独立し、「信長」と同盟関係になったといってもほとんど一方的に奉仕するばかり。命令で、妻子まで殺すはめになる。それでも耐えて、「信長」が本能寺の変で死ぬまで同盟を裏切ることはなかった。「秀吉」に対しても同じです。少なくとも「秀吉」が活着している間はよい補佐役でした。だから律儀者だと評価されていましたが、超保守主義者で冒険ができない人だったのでしょ。

「家康」は乗馬の上手で有名だったのですが、小橋を渡るのに10mほど手前で馬を降りたといいますからね。薬なども、自分で調合して、医者信じなかったといいます。でも調合した薬は自分のためだけに使う。愛妾にさえ作ってやろうとはしない。

だから「家康」の場合、自分が大切なのです。その次が「徳川家」で、その次に「家の子郎党という家来」。大切なのはそこまでですね。

「徳川幕府」といっても山深い三河で発生した松平氏という土豪の家の政(まつりごと)の拡大にしかすぎません。独創性ということでは皆無に等しい。

それでも応仁の乱以後100年続く戦乱を鎮めたのは「家康」だからだと思います。「家康」は天下人となっても、冬になると手足にはアカギレがあったといいます。それだけ贅沢をしなかった。というより吝嗇(りんしょく)ですね。

関八州250万石の大々名になった時でも家来の封土は1~3万石でおさえていた。「秀吉」から家来を名指しで10万石ぐらいはやりなさいと言われたくらいなのですね。

しかし、「信長」「秀吉」と比べると人間的、性格的な安定感「家康」が一番です。「家康」は無駄な殺人を命じたことはありません。他人の話もよく聞きました。安心感があり

ますし、信頼感もうまれる。

3人の中で、現代に生きていても犯罪者になることがないのは「家康」だけです。面白味はないけれど、生き方は学ぶべきところの多い人。だから中国でも読まれるのですね。

## 千の夢話

### 理想の営業マン

こんにちは。ケーキを作ったら、友だちから「女の子になってきたね」と言われた中井 千尋です。いつ女の子になれるのかしら！？

突然ですが、私はパソコンがあまり得意ではありません。ブログやホームページといったものも、今の仕事をしていなければ、作ろうなんて思いもしなかったと思うのです。いまだに分からないことだらけで、教えてもらったり、調べたりして何とかやっている感じです。

でも、いろいろな会社が、インターネットを利用した宣伝をしませんか、とメールやDMを送ってきます。正直、よく分かりません。どの会社を信頼したら良いのかも悩むところ。結局、お金がかからない範囲で自分でしています。

何が言いたいかというと、住宅も同じ、いえ、それ以上に悩むものだ、ということ。いろいろな会社があります。いろいろな建て方があります。分からない、知らない、信じていいか、任せていいか――。

その悩みや迷いに、とことん付き合ってくれる。希望を聞き、ときにはあえて、経験値からやめた方がよいとアドバイスができる。何にせよ、まずは信頼できるかどうか。そして自分の気持ちをきちんと汲み、希望通りにしてくれるかどうか。

パソコンやその他、自分の分からないことでどうすれば良いか悩むとき、モワモワモワ〜と理想の営業マンが頭の中に現れます。理想の営業マンは、私の分からないことを詳しく聴くと、幅広い知識でサクッと解決してくれるのです。

現実にはどこにいるのか分かりませんが、とりあえず、住宅に関することでは、目下の所、目標は父親です。知識や経験、気配りにおいてもまだまだ足元にも及びません。

父を追い越し、さらに理想の営業マンになるぞ、と思っています。

ブログ「親子で起業 奮戦記 ～帰りたくなる家造りを～」 <http://yu-rinhome.seesaa.net/>  
(ユーリンホームで検索してみてください)